



あかるく元気な子 だれにも親切な子 しつかり考える子 ことばを大切にする子

五感を働かせて小さな秋を見つけよう！



○日の入り時刻が少しずつ早くなり、朝夕の涼しさも感じるようになりました。耳を澄ますと、いつの間にか昼の蝉の声から、夜のコオロギの声に変わってきています。明後日 7 日（木）は二十四節気の「白露」です。夜の間には大気が冷え込み、草花に朝露が宿るところとされています。季節は確実に秋に向かって進んでいます。そうした、四季折々の気候や景色の変化に、目を向け、耳を傾け、肌で感じてみるのもいいかもしれません。また、秋の香りや味覚を楽しむのもいいですね。私たちの身の回りには小さな秋を、五感を使ってだれよりも早く見つけてみませんか。

○ところで、みなさんは、「秋の七草」って知っていますか。「せり、なずな、ごぎょう、はこべら、ほとけのざ、すずな、すずしろ」の「春の七草」は知っていても、「秋の七草」は知らないという人も多いのでは…。春は、「七草がゆ」を食べるから覚えているのかな？

はぎ（萩）



ききょう（桔梗）



くず（葛）



おみなえし（女郎花）



秋の七草

ふじばかま（藤袴）



すすき（尾花）



なでしこ（撫子）



元々の「七草」は「秋の七草」を指すそうですが、直接何かをする行事は特にはないようです。秋の野の花が咲き乱れる野原を「花野」（はなの）と言い、花野を散策して短歌や俳句を詠むことが古来より行われていたそうです。「秋の七草」は、それを摘んだり食べたりするものではなく観賞するためのものであり、したがって「秋の七草がゆ」というものも存在しないそうです。

「秋の七草」は、上の写真の順番で覚える方法や、花の頭文字を並べて「おすきなふくは」で覚える方法などがあります。花の名前を覚え、学校の行き帰りに実際にその花を見つけては短歌や俳句を詠んでみるのも、秋の楽しみ方の一つかもしれません。

○運動会の練習で毎日忙しい日々が続きますが、そうした小さな秋を見つけたり、見つけた秋で楽しんだりして、心のゆとりをもつことも大切にしたいものです。

